

3-1 大間々の見立て

見立てのワークショップ



民間のワークショップでは、大間々のまちをよりよくしたい、アクションしたいと思う若手の方々と、長年にわたって大間々の伝統を受け継ぎ育ててきた先輩方で、大間々の魅力と課題感を掘り起こしてきました。これらをもとに、大間々らしさと大間々の精神性を見立てました。

point 1

ワークショップで出たキーワード

(一部抜粋)

まちの成り立ち、受け継がれる三方良しの精神

生糸・絹・木材の集積地として栄えた街

大間々六人衆

各町で揃っている常夜灯

火事で醤油を差し出した近江商人の精神

「おらがまち」溢れんばかりのみどり愛

地元愛に溢れている人が多い

競争ではなく共創/協力的な人が多い

大間々高校
井上浦造
みらい塾

地域団体が
多い

官民連携の新たな芽生え

駄菓子屋
パンドール

清見邸

暮らしを彩る複合施設
Haji-Marū

ままよしプロジェクト

point 2

まちを囲む豊かな自然

自然豊か

渡良瀬川
高津戸峡

香り高き食文化

近藤酒造

岡直三郎商店

余暇を彩ってきた豊かな文化と娯楽

わたらせ
溪谷鐵道

明治時代には
芝居小屋が
5軒あった

大間々
祇園祭

今はなき
千代の湯
高砂の湯

新たに展開される日常のイベント

イベント沢山!
大間々に行く場所
が増えて楽しい

ままよし
マルシェ

サステナ
ホコ天
マルシェ

大間々屋市

point 3

歴史的な建造物・町並み

歴史的な建物が
多く残る

コノドント館

路地が良い

まちなかに
井戸が多い

暮らしに寄り添う多様な生活商店

生活物資の
発信地だった

60年前、4-5丁目
に125店舗の
商店街

衣食住に関わる個人商店と商店主の
お名前が多く上がりました。

高齢化・シャッター街化

高齢化
子供が少ない

働き口が
街の方でも
少ない

発達した交通網

近隣観光地へ
の中継地点
として良い立地

車に頼りがち
歩く必要性が
薄くなった

3-1 大間々の見立て

point
1

三方良しの精神が受け継がれるまち



私財を出し合ってつくられたまち

大間々の本町通りの中央にはかつて堀があり、先人たちの寄進により常夜灯が建てられました。そのうちの数基の常夜灯は現存しています。みんなのために自分のお金や時間も惜みず、まちに投資する先人たちの思いは三方良しの精神に通じています。



貴重な醤油で消し止められた大火

明治28年4月26日、大間々で大火があり岡直三郎商店が町のために貴重な醤油を放出して消し止めました。そして被災した家々に見舞金を配りました。さらには、自費で井戸を掘り、みんなが使えるように手押しポンプをつけて一般市民に解放されました。



まちを想い活動する多数の任意団体

大間々エリアには多数のエリアマネジメントを担う任意団体が存在しており、みんな自分ごととしてまちのためにできることを考え取り組んでいます。まちの先輩たちが育んできた「大間々愛」は次世代にも受け継がれ、新たなムーブメントが生まれています。

見立て①

市民が自分ごととして、自らまちを盛り上げるのが得意。

point
2

豊かな地域文化と生活が息づくまち



ふるまい、ともに楽しむ

まもなく400年の歴史を迎える祇園祭は、ふるまいの祭りとも言われています。祇園祭ではお祭りに出てきた人にお赤飯・なまりなどをふるまっていたほか、区ごとに同じ法被をみんなで纏うなど、ともに楽しむことを大切にしています。



まちに漂う文化の薫り

大間々はかつて宿場町・集積地として人が集う場所であったこともあり、娯楽文化が発達しました。昭和期には映画館や劇場が登場し、大間々の人々の日常を豊かにしました。現在も、ながめ余興場はみどり市のシンボルとしてまちの人に愛されています。



社交場でもあった大衆浴場

かつての大間々には、ながめ遊園地内にあった「千人風呂」や「千代の湯」「高砂の湯」など複数の大衆浴場がありました。一日の疲れを癒すお風呂は多くの地域住民にとって憩いの場であり、また社交場でもありました。

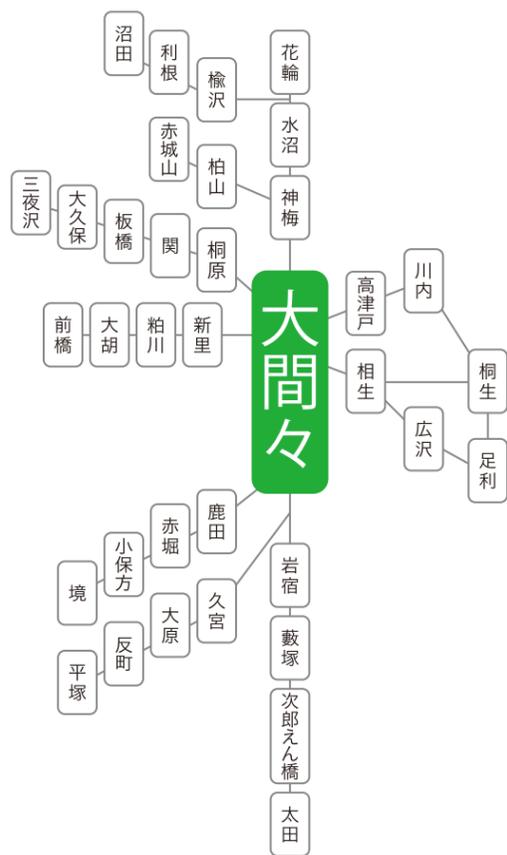
見立て②

日常の中に楽しみを見出し、ともに築き上げるのが得意。

3-1 大間々の見立て

point
3

ヒトとカネが集まった関東指折りの市場まち



多くの人が行き交う交通の要衝

かつては足尾で産出された銅を利根川の水運を使って江戸まで輸送していたほか、江戸時代には中山道からの分岐点として街道整備が進み、宿場町として発展しました。今も町内に複数の道路元標が現存しており、多くの地域から人が行き交っていたことがわかります。



遠方の人魅了した産業拠点

大間々は古くよりあかがね街道の主要な中継地として栄え、関東でも有数の絹市が開かれていました。また絹・生糸以外にも農産物や生活用品など幅広い商品が集まり、桐生・伊勢崎・前橋など県内各地から商人や買い物客が集い、商業拠点として栄えました。



先進的な金融機関の設立

大間々銀行は明治10年に設立された銀行類似会社である大間々生産会社を前身として、明治16年に開業しました。大間々銀行は群馬県で最初の私立普通銀行であり、国立の二行に次いで県内で三番目の本店銀行として地域経済の発展に大きく寄与しました。

見立て③

新たな出会いや発見を生み出すHUB。

